

にまたしても点差を広げられ、またも「一部復帰」は来季へと持ちこされた。

来季こそ悲願を達成すべく、部員一同1から出直してがんばりたい。

<葉山部門>

昨年度、天候に恵まれず不本意なシーズンに終わった我々は、今年こそは「海の王者」を目指すべく、10月から猛練習を開始した。さらに、何年かに一度という外洋での大遠泳、大島-城ヶ島50km遠泳が決定し、部員の気合いは否が応にも高まった。

来たるべき試合や遠泳に向けて、厳しい水泳練習や遠泳の計画は進められ、7月下旬、一年間の集大成といえる館山合宿に突入した。

天候には大変恵まれて、まずは塩見-浜金谷24km遠泳が全員完泳で成功し、昨年は台風で中止となった鏡ヶ浦横断遠泳大会では上位独占、初島熱海間団体競泳大会では一歩及ばなかったが、新入生の挑んだ塩見-岩井15km遠泳も全員完泳で成功した。大島-城ヶ島50km遠泳は13時間15分という激泳の末、大西・代田・関口の3名が完泳し、ここにまた葉山部門の大きな歴史を刻むこととなった。

全体的に素晴らしいシーズンとなったが、これに甘んじることなく来年は「海の王者」完全制覇に向けて日々努力していきたい。

<戦績>

▷'94東京アイランド・アクアスロンIN式根島

(Swim1.5km Run10km 6月25日 於：式根島)

優勝 代田(政3) 51分18秒

▷第31回鏡ヶ浦横断遠泳大会

(4km 7月31日 於：館山)

優勝 慶應葉山A(大西・代田・松井) 1°17'42"

2位 慶應葉山B(田口・山田・斎藤) 1°22'18"

▷第47回初島熱海間団体競泳大会

(12km 8月4日 於：熱海)

3位 慶應葉山(大西・代田・松井) 2°18'36"

▷第39回日本泳法大会

(8月21・22日 於：日本サイクルスポーツセンタープール)

泳法競技 決勝 7位 松井 240.0点

10位 斎藤 235.5点

横泳競泳 決勝3位 代田 1'15"0

支重競技 決勝7位 田口 1'11"3



飯端 主将



勝山 主務

野 球 部

今年の野球部は、前田監督から後藤新監督へバトンタッチされたことによりチーム作りも去ることながら野球に対する方向付けから話し合うといった事からのスタートとなった。恒例のキャンプは、まず高知の春野から始まり広島→神戸→大阪と練習や社会人チームとの試合を重ね春季リーグ戦に備えるには、十分な内容だった。また法政大学が、やはり新監督の山中氏を率いての新チームと言うことで、注目のリーグ戦となった。開幕戦は立大だった。第一回戦は、実績と経験のあるエース井深(葦山・総4)の先発となった。リーグ戦の中でも緊張するこの一戦を6-3と先勝し、弾みをつけることが出来た。しかし第二回戦は、前日とは違う試合展開となりシーズンゲームの中、8-8の引き分けとなった。第三回戦は、慶大ペースで試合が進み5-2で勝ち点1を得ることが出来た。続く明大戦は、何度となくスコアリングポジションにランナーを進めるものの決定打がなく、1-5・2-8と連敗し、いたい星を落としてしまった。気持ちを切り替えての東大戦は、第一回戦を2-1辛勝した後第二回戦をまさかの4-5で落とし、第三回戦は6-2で勝ったものの後味の悪い対戦だった。法大戦は、第一回戦を6-0と快勝し、波に乗ったかと思いきや翌日の雨により水を差された。その翌日先発した小野(桐蔭学園・政3)が、頑張ったものの法政の粘りからシーズンゲームとなり惜しくも7-8で負け、決勝戦にすべてをかけた。しかし井深の力投空しく4-5で惨敗した。そして残すは勝ち点2の中、慶早戦のみとなった。早大の連勝で、早大の優勝と言うことで絶対に負けられない試合だった。また、第二回戦には44年振りの天覧試合という事で大いに盛り上がった。試合の結果

は第一回戦を5-3、第二回戦を5-2と井深・丸山(松山・文4)・中村(富士・政4)らの活躍により連勝し、良い形で春季リーグ戦を終えることが出来、順位は3位だった。

新チーム・新監督ということで戸惑いもあった中、頑張ったが今一步のところで粘りが足りない感のあった春季リーグを振り返り基本に戻ることを意識し、新たな気持ちで秋季リーグ戦に向けて始動した。また、8月には岐阜でオール早慶が開催され6-8で負けたものの良い経験をし、また楽しい思い出も作ることが出来た。帰京してからは、オープン戦を重ね秋季リーグ戦を迎えた。開幕戦である立大戦は、オープン戦の調子そのまま出て、4-2・3-1と危なげなく連勝し、勝ち点1を挙げた。そして迎えた法大戦、春の仕返しをすべく臨んだ第一回戦は、法大の投手陣に完璧に抑えられ0-4の完封負けを喫してしまった。第二回戦は前日の敗北を引きずってしまいまたもや0-3で完封負けを喫してしまうのかと思いきや、終盤で追いつき、さらに延長戦では中村の本塁打で勝ち越し。その裏を抑え、なんと奇跡の逆転劇をやったのけたのです。それで完全に波に乗った塾野球部は第三回戦を9-1で快勝し、勝ち点2を挙げ、この時点で「慶應優勝!」という声を既に耳にするように



なっていた。次に迎えた東大戦では春の試合を反省し、臨んだ試合だったがまたしても一敗を喫し6-1・6-8・9-4という成績で勝ち点3点を挙げたものの、最後までこの一敗が響くことになったのである。明大戦ではアジア大会で日本に金メダルをもたらしてきた捕手の高木(桐蔭学園・総3)や井深の力投と、丸山の本塁打により7-5と何とか勝ったものの第二回戦は0-3と完封負け。迎えた第三回戦は追いつき空しく5-10で惨敗した。残すところ早大戦のみとなった塾野球部は、対戦する時点で既に法大の優勝が決まっていたのでせめて宿敵であるこの早大だけは春同様、連勝するつもりだった。しかし第一回戦を4-7で落とし、第二回戦もズルズルと行ってしまった。8回までは、しかもノーヒット・ノーランのおまけ付きで。ところが、ヒットが一本出たところから連打が止まらず、同点に追いつきさらに逆転に成功した。法大戦を彷彿した。その勢いを借りて臨んだ第三回戦は残念ながら1-8と完敗してしまっ。そして同時に早大と同率3位が決定した。

以上のように今年の塾野球部は春秋3位という結果に終わったが、「天覧試合」・「井深通算26勝」・「丸山年間本塁打数最多記録11本」・「高橋(桐蔭学園・政1)1年生春季リーグ最多本塁打3本」等、記憶に残る試合や成績、記録が多い1年だった気がします。

最後になりましたが、お世話になりました関係者並びの関係諸団体の皆様方に厚くお礼申し上げます。

<戦績>

▷春季リーグ戦

対立大	①6-3	②3-1	③5-2
対明大	①1-5	②2-8	
対東大	①2-1	②4-5	③6-2
対法大	①6-0	②7-8	③4-5
対早大	①5-3	②5-2	

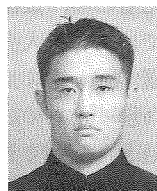
7勝5敗1分 勝ち点3 3位

▷秋季リーグ戦

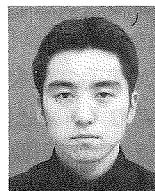
対立大	①4-2	②3-1	
対法大	①0-4	②4-3	③9-1
対東大	①6-0	②6-8	③9-4
対明大	①7-5	②0-3	③5-10

対早大 ①4-7 ②4-3 ③1-8
8勝6敗 勝ち点3 3位

蹴 球 部



村田主将



仲川主務

本年度の蹴球部は、村田主将・仲川主務のもと、12月5日よりシーズンが始まった。

昨シーズンは、3勝5敗、対抗戦7位と、ルーツ校としては、大変不本意な結果となってしまう、昭和61年の日本一以来の低迷を打破する為に、今年度は、2月に行われた納会の席で、その昭和61年に日本一となった時の上田昭夫監督への監督交替が発表された。

上田監督は、大学選手権出場を誓い、打倒青山学院大学を目標として、チームの指揮をとった。

そして3月上旬の練習再開と同時に練習試合を行ったという異例なスタートを切った。

また、選手とコーチ陣との連絡を密にする事をモットーとする為に、学校で教室を借り上田監督とのミーティングを行い、1年間は「緻密でひたむきなラグビー」を目指す事が決定した。

今年は、6月下旬までの春シーズンは、基礎体力の養成と強化を目指し、技術面においても、個人能力の向上を主に取り組んできた。

そして、監督・コーチが新しくなり、3月上旬の練習開始とともに行った練習試合で、部員全員の見せたすばらしい気迫が一つとなり、例年のないグラウンドでの緊張感と、同じポジション同志の激しい争いが行われた。

しかし、昨シーズンレギュラーとして試合に出場していた者が少なかったための経験不足などによって、1本目チームは、中央大学との1試合のみ白星という結果に終わってしまい、多少の焦りを感じたのであった。

しかし、終盤に行われた、早稲田との一戦では、後半、塾のペー

スをつくり、ほとんど相手陣で試合を行うという素晴らしい試合を行い今年度のチームでの手応えを少し感じ始めた。

春シーズンでの様々な課題を、7月中旬に何日か練習を行い8月の夏合宿迄に考え、夏合宿を向かえた。

山中湖での夏合宿は、これといったスタープレイヤーがいない我蹴球部にとっては、“地獄”とも形容される程であり、この合宿こそがバックボーンであったが今年度の合宿は、8月3日より17日迄の一次合宿は、午前中はフィットネスに午後は個人のスキルアップに重点を置いた。こうして、一次合宿は、タックルと走り込みだけを重点に置き、ユニットごとの練習が、驚くほど少なかった。

それから、一週間のオフの後、8月24日より30日迄の二次合宿を、3年ぶりに山中湖で行った。この二次合宿は、A・B両チームともに山中湖へ行ったが、AチームとBチームでは完全に別メニューの練習を行い、Aチームは、午前中は、一次合宿に続きフィットネスを行い、午後は、チームスキルの向上、夜には、約一時間のミーティングを行い、徹底的にラグビーだけを考えられるとても良い合宿となり、27・28日にその成果を試す為に、サントリー・クボタと試合を行い、社会人相手に大変良い試合をし、9月からの公式戦に向けての手応えを感じていた。

また、大きなケガ人を出す事なく終えた事も、秋シーズンへ向け

